

## 中心市街地空き店舗を利用した市民参加型レストラン

### 『背景にあるもの』

1. 小林市では人口減少、少子高齢化に加え、かつて賑わいのあった中心市街地の衰退が顕著で、4つの商店街での空き店舗率が30～50%となっている。
2. 市民の意見を吸い上げるシステム、起業や新しい取り組みに対しての支援システムや風潮が整っていない。(新しい事を始めるのに多大な労力がかかるため、アイデアがあってもほとんどの人が諦めてしまう。)
3. 半年上限ではあるが、商店街空き店舗の賃料を補助してくれる制度がある。

\*上記の背景に対して、市民の方々のアイデアが気軽に形になることで、その流れが広がり、発想のあふれる街に変わって行く第1歩になればという考えから表題の『中心市街地空き店舗を利用した市民参加型レストラン』を企画いたしました。

### 『企画内容』

市民の皆さんから料理のレシピを募り(地区に伝わる料理、我が家独自の料理や創作料理など)それをお店のメニューとして出す。そして、そのメニューの売り上げに応じてインセンティブを発案者にお支払いする。

メニューとしての採用を投票制にするなどして、それに関するイベントを組み、市民の方々にも審査員として参加していただくなどする。

### 『効果として考えられること』

1. 自らの料理(アイデア)が採用されることにより発案者には自信が生まれ、その周囲には「自分も!」という意欲が生まれる。
2. メニューへの採用においてその対価が生まれる。
3. お客様にはこれまでに食べたことのない料理やとびきり美味しい料理を食べる喜びが、発案者には自らの料理が多くの人に食べていただける喜びが生まれる。
4. 発案者本人やその周りの人々にとって「この料理はねえ、」とお店に行く楽しみが広がる。
5. 他の地域からこのレストラン目当てで人が訪れるようになった場合には、地元住民に地域への愛着や誇りが生まれる。

この企画(レストラン)をきっかけに市民が街づくりに関われる機会が増えて行く道筋が出来ればと考えています。

以上